

(様式2)

健やか食育プロジェクト事業報告書

健康福祉事務所名 中播磨健康福祉事務所

1 食育推進体制の整備

食育推進課題	<p>管内は幼児期・学童期の肥満出現率が県平均より高く、市川町4、5歳、市川町と福崎町学童の肥満出現率が中・西播磨圏域の平均値より高い（平成29、30年度幼児学童の身体状況調査）。</p> <p>管内3町は空腹時血糖100mg/dl以上の割合が県内と比較して優位に高いなど、成人期で高血糖を中心に生活習慣に起因する健康課題が上げられる（兵庫県平成23～27年度死亡統計指標、平成25年度特定健診データ解析書）。</p> <p>管内の乳幼児健診では、健診後の具体的な支援体制や課題解決に向けた市内の横断的な連携強化が必要である（平成30年度健やか食育推進会議）。</p>
今年度の推進方策	乳幼児とその保護者等に関わる食育関係者（児童福祉施設職員、母子健診従事者等）の資質向上を図り、若い世代の食育力を強化する。
成果	<p>食育実践活動では、地域の保育関係者が食育は乳幼児期における心身の育みとも関わりがあることの理解を深められた。事例検討会でハイリスク児に対する支援方策と併せて各町で実施する健診業務の効果的な進め方も検討した。</p> <p>会議では、食育関係機関それぞれの取組み状況や関係機関・団体が食育を実践するうえで認識している課題について広く共有することができた。</p>
今後の方向性	各町における保健分野と教育分野等と連携を強化することで、若い世代の食育推進の実施を進める。

2 会議の開催状況

実施日時	令和2年1月9日（木） 14：00～15：45
参集者 （団体数 及び人数）	15機関・21人
協議内容	<p>(1) 令和元年度幼児・学童期の身体状況調査結果について</p> <p>(2) 健やか食育プロジェクト事業の取組みについて</p> <p>(3) 関係機関における取組み及び現状について</p>
今後の方策	各町が実施する健康増進・食育推進関連の既存会議において、関係者間の取組み状況や課題の共有をしていく。

※会議の議事録、参集者名簿を添付すること。

3 食育実践活動の結果

テーマ	食育関係者の資質向上による若い世代の食育力の強化		
対象及び参加者数	① 神崎郡内の保育所・こども園・各町担当課等 15人 ② 神崎郡内母子保健担当栄養士及び保健師 5人 ③ 神崎郡内の保育所・認定こども園・幼稚園に通う幼児とその保護者 (各町教育委員会を通じて、各園にリーフレットデータを配布)		
事業内容	日時・場所	内 容	講師・運営スタッフ
	10月16日(水) 15:00~16:50 中播磨健康福祉事務所	①管内保育関係者等を対象とした研修会 ・取組紹介「こども園の食育活動」 報告者 屋形こども園 栄養士 藤原 亜希子氏 ・講演「乳幼児の発育・発達における食の関わり」 講師 神戸女子短期大学 食物栄養学科 平野 直美 教授	社会福祉法人屋形こども園 神戸女子短期大学 健康福祉事務所
	12月5日(木) 14:00~15:45 中播磨健康福祉事務所	②各町健診担当者を対象とした研修会 ・事例検討会	健康福祉事務所
	3月	① 幼児とその保護者を対象とした普及啓発食育普及啓発リーフレットの作成・配布	健やか食育推進会議 構成員 健康福祉事務所
成 果	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の保育関係者が乳幼児期における心身の育みと食育の関わりについて理解を深められた。近隣施設の取組紹介により、所属施設が取入れられることを検討する機会になった。 ・事例検討会で健診時に対応が困難であった事例を共有することで、ハイリスク児に対する支援方策と併せて各町で実施する健診業務の効果的な進め方も検討することができた。 ・啓発資料の内容は、会議構成員より幼児や保護者への周知に適しているとの意見が得られた。 <p>【評価指標と目標値及び達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育関係施設及び機関の参加率 保育所・こども園・幼稚園・学校給食センター 目標50%→47% 各町教育委員会及び健康づくり主管課 目標50%→30% ・母子保健事例検討会の参加率 目標100%→83% ・研修会及び事例検討会参加者の意見から、取組報告を受けて出席者が所属施設で取入れられることを持ち帰り検討する機会になった。子どもの発育・発達と食育の関わりについて理解を深められた。健診従事者が事実に基づくアセスメントや情報整理の必要性を認識できた。 		
今後の課題	保育・幼児教育施設は、食育に関心のない方や町や関係団体が主催する教室事業に参加が困難な就労世代にも介入が可能であるが、教育時間や教諭により実施状況に差が生じる。学校給食を外部搬入しているため、認定こども園・保育所、学校給食センター、養護教諭、保健センターが連携した乳幼児期から学童期まで一貫した取組みの検討も必要である。		

※プログラムや内容がわかる資料を抜粋し添付すること。

健やか食育プロジェクト ～子ども・子育て世代の食育推進を支える～

保育関係者等向け研修会

- 日 時：令和元年10月16日（水）15:00～17:00
- 場 所：中播磨健康福祉事務所 大会議室
- 参集者：保育園・認定こども園等施設職員、関係機関職員

取組紹介：こども園の食育活動

報告者：保育所型認定こども園 屋形こども園 栄養士 藤原 亜希子氏

講演：乳幼児期の発育・発達における食の関わり

講師：学校法人 行吉学園 神戸女子短期大学
食物栄養学科 教授 平野 直美 先生

取組紹介

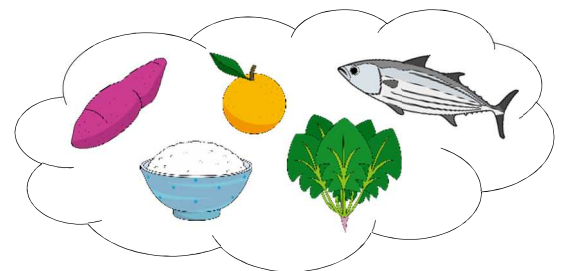


施設で毎日の保育活動で取り組まれている食育について報告していただきました



- 給食提供時の工夫点（2）
- ・ 調理担当者が給食時間に各クラスの様子を確認、子どもへの声かけ実施 等
 - ・ 保育士がほめて、子どもたちの食べる意欲を引き出す
 - ・ 「おいしいね」、「しっかり食べようね」などの声かけをする
 - ・ 4、5歳児は、時間を決めて食事する。その時間で食べられたらシールを貼るなど小学校入学を視野に入れた準備を実施

講演



乳幼児期の食経験は成長した時にどのような影響があるのか？
施設や地域が取組む給食時間や食育活動を裏付けるものは何か？
専門家の先生に教えていただきました



離乳食の時には、
食材が持つ
味を体験していく

